

子どもの言葉に気づかされたこと

PART 2

拡大版5

● 陽光保育園 ●

てるてる坊主は働き者!?

芋ほり遠足に行く4歳児クラスの子どもたちと一緒にてるてる坊主を作ることにしました。出来上がったてるてる坊主を部屋に飾ると、風にゆれてクルクルと回りだし、子どもたちは「回ってるー!」と言って笑って見ていました。

ているんだなあ、子どもの言葉にハッと、想像力の豊かさを学んだ場面でした。次の日、遠足に出発する前、風は吹いていなかったのですが、みんなで「晴れますように」と、てるてる坊主をクルクル回してから出発しました。当然(!?)その日はとても良いお天気と、大きなお芋に恵まれて、大満足の1日になったことは言うまでもありません。てるてる坊主さんがしっかり動いてくれました。(陽光保育園保育士 星いずみ)



4歳児クラスと5歳児クラス合同の芋ほり遠足。大きなお芋を掘り(上)、最後はみんなでニコニコ(下)。楽しい1日でした

● 桜台第一保育園 ●

子ども同士で解決する力

とびうお組(4歳児クラス)が園庭で自由遊びを楽しんでいたときの出来事です。それぞれ友だちと一緒に砂場、三輪車、鉄棒などを楽しんでいた。そのなかで、ボールの蹴り合いを楽しむSちゃん、Aくん、Sくんがいました。

互いに「ごめんね」「ごめん」と言い合い、再び3人でボール遊びを始めるのでした。「仲直りするー!」と言ったAくんは正直なところ驚き、またうれしくも感じました。「こうしたら」「ああしたら」と保育士の思いだけで解決しようとするのではなく、「どうすればいいかな?」ときっかけを作ってあげるだけで、自分たちで解決できる力が育っていることに頼もしさを感じ、そついった視点を持ちながら関わるこの大切さに改めて気がつくことができました。

(桜台第二保育園保育士 岡部浩子)

● 板十小あいキッズ ●

大切にしたい日課

「ああ、掃除ができなくなっちゃった。手首にケガをしてしまったAさんの一言です。高学年のAさんは、1年生のときからずっとあいキッズに通っていますが、同学年の子たちは学年が上がるにつれ、あまり来なくなっていました。なので、今は下級生と遊ぶことが多いAさんです。将棋や四目並べなど、指導員を相手に遊ぶこともありますが、とても強くて、大人も相手になりません。あいキッズでは夕方、子どもたちが少なくなる時、小さいほうの部屋を掃除しますが、あるときAさんが、「ヒマだな。手伝って?」と言ってくれました。改築前のあいキッズ室では、みんなで床の雑巾がけしていたことがあったのですが、そのころはちょっと面倒くさそうにしていたAさん。この日は、「何すればいい?」「拭く?」「マットの上を



鬼ごっこや砂遊びなど、園庭で遊ぶ4歳児クラスの子もたくさん

乳児へ

きんぎょが にげた

作：五味太郎
福音館書店刊 / 24頁

金魚鉢から逃げだした1匹の金魚。「どこににげたかな?」と遊びながら楽しめる絵探しの絵本です。「いた!」とうれしそうに指さす子どもの笑顔はたまらなく可愛いです!!

幼児へ

三びきのやぎの がらがらどん

絵：マーシャ・ブラウン
訳：せたていじ
福音館書店刊 / 32頁

小さいヤギ、中くらいのヤギ、大きなヤギ、どれも名前は「がらがらどん」。草を食べに山に登っていく途中、谷に住むおそろしい化け物「トロル」に道を阻まれます。ヤギとトロルの言葉のやりとりと勇敢に立ち向かう大きなヤギの姿にドキドキハラハラ! 怖いけどおもしろいお話です。

大人も

ちいさいおうち

作・絵：バージニア・リー・パートン
訳：石井桃子
岩波書店刊 / 44頁

静かな田舎の丘の上にちいさいおうちがありました。やがて道路ができビルが建ち、あつという間に景色が変わり、ちいさいおうちは孤独を感じます。人の暮らしと自然……考えさせられる一冊です。

● 北町保育園 ●

保育士と関わる時間の大切さ

ある日の1歳児クラスのことです。給食の時間に子どもたちと「おいしいね」と言いながら給食を食べていました。そこへ運搬で出勤してきた担任保育士とクラスの様子を話しはじけると、子どもから「話さないで!」と言われてしまいました。「そうだね、ごめんね」と、また一緒に給食を食べました。そのときの子どもたちの思いを振り返ると、その時間は担任とゆっくり関わる時間だったの、違う方向を見て話をしていたのがイヤだったのだと感じました。「私を見て!」と子どもなりに伝えていたのだと思います。今はコロナ対策で幼児組は黙食をし、乳児組もなるべく話はしないように気をつけて食事をしていきます。

それでも、遊びのなかでは子どもとのやりとりを大事にしています。言葉が増えてきて話すことが楽しくなってきた子どもたち、きれいに雑巾がけしてくれました。「ありがとう!」とても助かったよ!と指導員。それから数か月、Aさんが掃除を手伝ってくれる日が続いています。

最初は手持ち無沙汰で何となく手伝ってくれたのでしよう。でも今は、自分の役割として、責任感のようなものを感じているのかもしれない。ケガをしたために「掃除ができなくなる」というその言葉で、Aさんがあいキッズを自分の居場所として必要とされているように感じ、なだか励まされました。

(板十小あいキッズ指導員 木村陽子)



左:雪が降った日、校庭で雪だるまを作ったよ。下:ポケモンカードゲームは男の子に人気

沖縄の声、沖縄の叫びに耳を傾けて

★ 戦争と私

そして未来へ

大城松健

私は1953年名護市生まれの68歳です。15歳のころからクラシックギターの魅力に惹かれ、53年間ギターを弾いています。ところが、2014年9月に名護市議選に駆り出されて、辺野古新基地反対の立場で当選させていただきました。それまでは、政治的な活動にはまったく関わっていませんでしたが、当時の新基地反対の名護市長の立場を見るに見かねて、自分も必死で市長を支えねばという強い思いから市議となりました。

私の母は1929(昭和4)年生まれ那覇市の出身です。今年93歳になりますが、元気です。あの忌まわしい沖縄戦の生き残りです。当時沖縄本島で最も悲惨な激戦地となった南部を親族12名で逃避行するなかで、母と母の姉のたった2人だけが生き残った体験をしています。母・愛子と叔母・和子の沖縄戦体験記は、2015(平成27)年、戦後70年の節目に『忘れていやならん、戦世ぬ哀れ』と題して自費出版しました。生き残った2人の体験を2人が元気なうちに何としてでも記録として残しておきたかったのです。

実際に戦争を体験した人々が共通して言うことは、「戦争は絶対にやってはならない、二度と起こしてはならない」という一言に尽きます。あの忌まわしい沖縄戦の犠牲になった多くの人々の死を無駄にしないためにも、戦禍の中を奇跡的に生き抜いた母と叔母の体験を語り継がなければならない、戦争は二度と起こしてはだめだという強い思いが母からしっかりと私の中に受け継がれているのです。

1972年に沖縄は沖縄県として復帰しましたが、米軍基地はいまだに存在しています。戦後77年もたつのに沖縄は植民地状態です。普天間飛行場も本来なら無条件で返還されるべきです。辺野古に新基地をつくらなければ、返還されないと誰が決めたのでしょうか。沖縄の県民投票で多くの県民が辺野古新基地建設反対の民意をハッキリと示しています。にもかかわらず、日本現政府は新基地建設のためにあの世界にみても貴重な海洋生物が5,300種以上も棲む辺野古大浦湾の土砂埋立てを強行しています。沖縄県民はそれでも諦めずに建設阻止行動を続けています。戦争のための基地は要らないのです。平和のための闘いはこれからも続きます。沖縄県外の皆さま、沖縄の声、叫びにぜひとも耳を傾けてください。よろしくお願いたします。

(沖縄県名護市在住/ギタリスト)



遊びの幅が広がった1歳児。絵具も砂も手で触れて楽しい

(北町保育園保育士 遠藤友見)

子そだて奮闘記

子どもの成長を感じた日

我が家は4人家族で、小学校1年生の息子と保育園年中の娘がいます。夫と私は同郷者であり地方出身。夫の仕事の関係で東京に来て8年になりますが、実家までそう遠くないこともあり、月に一度は帰省をして孫の成長を常に見せていました。その生活が一変、新型コロナウイルスが流行り始めた2年前から帰省ができなくなり、子どもたちと両親とのやりとりは専らテレビ電話のみとなりました。顔を見ることができなくなりましたが、やはり直接会えないのはとても寂しく、それはまた長い長い年月に感じました。

しかし、この年末年始のこと、ギリギリまで悩みましたが、最善を尽くした状態で帰省をしました。2年ぶりの田舎の空気はとても美味しく、子どもたちも大はしゃぎ!! 寒いなか、広い庭でサッカーをしたり風揚げや縄跳びをしたり。また年末には毎年恒例の餅つきも行いました。

2年前は杵を持つことも大福を作るのもそっちのけでおもちゃで遊んでいた2人も、今回は「お餅をついてみたい!」「あんなのお餅を作りたい!」と意欲満々。あんなことが出た不格好な大福が何個もできたことは言うまでもありません。でもその大福を食べて「おいしい!」と息子。食べられるようになったんだと驚く家族。成長を垣間見ることができた瞬間でした。

また、久しぶりに実家に置いてある子どもたちの服を整理すると……、当たり前ですがサイズがどれも小さい!! とてもじゃないけど今の子どもたちが着られる服は一つもありません。娘は字が書けるようになり手紙を書いてみたり、息子は本を大きな声で読んだり、たくさんの成長を見ることができました。

子どもにとって一日一日が急成長を遂げる大事な時、また新たな変異株が猛威をふるい始め不安がつりますが、身体には十分に気をつけて、また新たな日を楽しく過ごしていきたいと思えます。早くマスクを取ってみんなで笑える日がきてほしいですね。

(板橋第十小学校あいキッズ保護者 相田早織)